

**【 投薬 】****18 一連の禁煙治療中（12週間）におけるチャンピックス錠の算定について**

《平成29年9月25日》

**○ 取扱い**

一連の禁煙治療中（12週間）におけるチャンピックス錠の算定については、B001-3-2の「3」ニコチン依存症管理料（5回目）を算定済であっても、用法・用量のとおり12週間まで認める。

**○ 取扱いを作成した根拠等**

ニコチン依存症管理料は、平成28年3月4日付け保医発0304第3号「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」別添1の第2章第1部医学管理等のB001-3-2ニコチン依存症管理料(1)において「入院中の患者以外の患者に対し、「禁煙治療のための標準手順書」（日本循環器学会、日本肺癌学会、日本癌学会及び日本呼吸器学会の承認を得たものに限る。）に沿って、初回の当該管理料を算定した日から起算して12週間にわたり計5回の禁煙治療を行った場合に算定する。」と記載されている。

禁煙治療のための標準手順書においては、IV.禁煙治療の方法の標準禁煙治療プログラムに、「標準的な禁煙治療プログラムは、12週間に渡り計5回の禁煙治療を行います。まず、初回診察で患者と話し合っって禁煙開始日を決定します。初回診察から2週間後、4週間後、8週間後、12週間後の計4回、禁煙の実行継続のための治療を行います。」と記載されている。

しかしながら、禁煙治療は、一連の禁煙治療中（12週間）において患者の状態等に応じながら、適宜、受診回数が増減、チャンピックス錠の1回の投与日数を14日分の処方にするなど、主治医と当該患者との同意書に基づく禁煙治療が行われる。

以上のことから、チャンピックス錠の留意事項通知に記載されている「本製剤の薬剤料については、ニコチン依存症管理料の算定に伴って処方された場合に限り算定できることとする。」については、ニコチン依存症管理料が算定されていない日に、当該薬剤を処方した場合は算定できないと解するものではなく、当該管理料の算定期間である一連の禁煙治療中（12週間）に伴って、チャンピックス錠が処方された場合に限り算定できるものと解し、原則認められると判断した。